

投映法特論

選択 4単位

張田 真美

1. 授業の概要(ねらい)

投映法人格検査の中でも日本の臨床現場で最も使用頻度が高く、また「操作と処理が極めて複雑な心理検査」(医科診療報酬点数一覧表による)とされているロールシャッハテストについて学ぶ。この授業では包括システム(エクスナー法)で学習する。

2. 授業の到達目標

本演習ではロールシャッハテストの理論的背景を理解した上で、実際に施行し、結果を得られるようになることを目標とする。具体的には2年次に「帝京大学心理臨床センター」において、実際にクライアントに対して検査を施行し、報告書が書けるようになることを目指す。

3. 成績評価の方法および基準

コーディングや構造一覧表の作成等の宿題、コーディングのテスト、ロールシャッハテスト実習レポートによって評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

上里一郎監修 心理アセスメントハンドブック第2版 西村出版
ジョン・E・エクスナー ロールシャッハ・テストハンドブック第5版 金剛出版
ジョン・E・エクスナー ロールシャッハの解釈 金剛出版

5. 準備学修の内容

コーディングの演習については、宿題を出すので、必ずやってくること。

6. その他履修上の注意事項

ロールシャッハテストを正しく解釈するためには、長い年月のトレーニングが必要である。この授業では「正しく検査を実施できるようになること」を最低限の目標とするが、そのためにはコーディングが正しくできるようになることも不可欠である。外国語を勉強するようにコツコツと、間違えを恐れずに数多く解くことで、コーディングの力をつけていって欲しい。

この科目は臨床心理学専攻に特化した科目です。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイドンス「ロールシャッハテストとは」
- 【第2回】 施行法について学ぶ
- 【第3回】 コーディング(反応領域、発達水準)について学ぶ
- 【第4回】 コーディング(決定因、形態水準)について学ぶ
- 【第5回】 コーディング(反応内容、平凡反応)について学ぶ
- 【第6回】 コーディング(特殊スコア)について学ぶ
- 【第7回】 コーディングの練習課題に取り組む
- 【第8回】 小グループに分かれて課題の検討、答え合わせ
- 【第9回】 構造一覧表の作成について学ぶ。翌週までにサンプル課題を完成させる。
- 【第10回】 クラスタ解釈について学ぶ
- 【第11回】 結果報告書の書き方について学ぶ
- 【第12回】 予備日(コーディングについての質問、確認)
- 【第13回】 コーディングのテスト
- 【第14回】 テストの答え合わせから、各自が理解できていない点について確認する。理解が不十分の学生には、再テストの予定を決める。
- 【第15回】 ロールシャッハテスト実習についての説明